



陛下並官省ニ差出スヘキ請願及訴願ニ關スル布告

第四號

大隈殿

山田



114  
A 2693  
68



官省ニ差出スヘキ請願及訴願ニ関ス

千八百十年二月十四日公布

字漏生国王陛下ハ直接ニ差出シ官省ヘ差

出ス不當ノ請願及訴願並ニ体裁ノ整ハサル

請願及訴願ノ益増加スルニ依リ此事件ニ関シ

更ニ左ノ事項ヲ確定シ之ヲ布告スルヲ必要トシ

玉ヘリ

第一何人ニテモ其請願及申立ハ先ツ第一ニ其

事柄ノ属スル主任官廳ニ差出スヘシ即チ警察



差出スハキ書面ニ添付スハシ署名ノ場所ニ  
 ハ請願者自身ニ其書面ヲ調製シタルヤ自身  
 之ニ署名シタルヤ或ハ何人カ代之ヲナシ  
 タルヤ附記スルハ何人カ代テ之ヲナシ  
 出ス書面ニ就中其書面ヲ差出スヲ役  
 タル町村住民其名ヲ署スヘシ  
 第三 請願者自身ニ其請願書ヲ郵便ニテ差出ス  
 第三 請願者自身ニ其請願書ヲ郵便ニテ差出ス  
 第四 何人トモ明白ニ綴文シ書記シ得ル

モノハ自身ノ為メ其親戚ノ官首ニ差出ス書面  
 已ノ為メ陛下並ニ陛下ノ官首ニ差出ス書面  
 ヲ調製スルコトヲ得其他何人タリ其請願  
 及訴願ヲ兼テ再應示達シ置キタル規程ニ從  
 テ各上等裁判所縣廳並ニ各官廳各裁判所ニ  
 放テ筆記ニ取ルヲ請フヲ得  
 第五 第一條第二條ニ示ス所ノ手續ヲ守ラス  
 即チ或ル官廳ヲ經ス若シクハ適當ノ處分ヲ附  
 守ラス請願訴願ヲナス者アルハ適當ノ處分ヲ附  
 セシテ其書面ヲ却下スハシ

第六

前條ノ却下ニ遭テ尚之ヲ悟ラス其不當  
 願ヲ格段ノ理由ナクシテ重スル者ハ十四日  
 乃至四週間禁獄若シクハ懲役若シクハ懲治  
 場入ヲ命ス  
 重テ之ヲ犯ス者ハ前罰ヲ二倍ニス之ヨリ以  
 後ハ其一犯毎ニ前ニ受ケタル罰ニ十四日乃  
 至四週間ヲ加フ  
 至四週間ヲ加フ  
 資産アルモハ相當ノ罰金ヲ課ス  
 請願者ヲ審問シ若シクハ其他ノ方法ニ據リ

第七

再願ノ禁ヲ犯シタル事確認セラレタルハ  
 直接ニ當該官首ヨリ若シクハ官廳ヨリ單純  
 ナル命令ヲ以テ其罰ヲ確定シ執行ノ命ヲ得  
 タル官廳之ヲ執行ス  
 出シテ之ヲ煩ハシ郷里ニ歸テ裁決ヲ待ツヲ  
 肯シセサル者ハ警察官廳ヲシテ之ヲ郷里ニ  
 送還セシム然ルモ尚再ヒ来リテ其請願ヲ繼  
 續スルモノハ第六條ノ規定ニ從テ處罰ニ取扱  
 所村並ニ所村總代ニシテ自ラ書面ヲ陛下若シ

第九 悪心ア普ル放恣ナル好訟者秘密ナル著述者及  
 八日乃至十四日ヨリ加フ前受ケタル罰ニ  
 二倍ニ至ス其後ハ一犯毎ニ前受ケタル罰ニ  
 又ハ懲役又ハ懲治場入ヲ命ス再犯ハ其罰ヲ  
 面ヲ重テ差出ス者ハ八日乃至十四日間禁獄  
 体裁ヲ守ラヌ又ハ一タレ却下セラレタル書  
 メニ書面ヲ調製スル處分ス親戚朋友知己ノ為  
 六條ノ定規ニ據テ處分ス親戚朋友知己ノ為  
 二書面ヲ調製スルコトヲ廢メサルモハ第  
 一書面ヲ明瞭ニ綴文シ並ニ書記スル能ハ

第八 分ヲナサントシ再ヒ来ル者ハ第六條ニ據テ處  
 者ヲ郷里ニ送還ス然ルモ尚自身親シク請願  
 二筆記ニ取リ之ヲ郵便ニ附シタル後其請願  
 スル書面ヲ取上ケ都合ニ依リ其意ヲ詳細  
 官ヲシテ之ヲ抑留セシメ先ツ其差出サント  
 地ヲ去ル者ハ其通過スル地方ノ裁判官警察  
 クハ其官省ニ差出シ請願ヲナサン為メ其住

内テ所スト訴ノス譯  
 = 請ヲルシテ正ル者  
 於願シテ其カノ曰訴  
 テ権正憲願ノ處カヲ普願  
 ノ=制法ノ改分スニ國権  
 ミ限第三十九條ニ權共=國法ノ許上請  
 此權アリ軍律=抵觸セサル區域  
 ヲ施用スルヲ得  
 或ハ危害豫防ノ為メ  
 廢止ヲ請求スルヲ許  
 之=堪ユ可ラサルヲ申  
 既ニ施行シタル處分  
 施行シタル處分  
 政府ニ申請  
 政府ニ申請

リオン子民普國憲法行義抄譯

陛下ハ本勅令ヲ公布シ成ルヘク廣ク公衆ニ知  
 ナ相談ス場合ニ對スル箇條ハ正式ノ審問ト判定ヲ  
 ナ相談ス場合ニ對スル箇條ハ正式ノ審問ト判定ヲ





下ニハ署名スハシ  
ニハ其會主或ハ  
ス而シテ同志會  
タルモノナシマ  
自ラ署名セシモ  
指合書ヲ添フ可  
其主意ヲ明瞭ニ  
第ニ項王或ハ高  
決定スルヲ要ス  
トス又詐願ノ審  
査ハ愛憎偏頗ナ  
ク且ツ速ニ

ナルヲ覺ラサル者ニ限リ國王ニ詐願スルヲ  
得ヘシ但王及執政大臣等其詐願ヲ聽セ  
スト虫凡詐願人ハ決シテ苦情ヲ唱ヘテ之ヲ煩  
ハス可ラス  
（原註）普國ノ法令ニ曰ク凡人民ヨリ官廳ノ不  
法不理事ナルハ或ハ慶分ヲ受テ遷延スル  
一ヲ其上司ニ申訴スル時ハ務メテ之ヲ受理シテ審  
査シ其主意正當ナル時ハ務メテ之ヲ助ケ若  
シ虛妄不正ナル時ハ許願人ヲ懲罰シ其義務  
正理ノアル所ヲ覺知セシムルヲ以テ其義務

第三項 之 許願人 其願書ヲ郵便ニテ送呈ス可  
及之 宰相ヲ煩ハス可ラシ親シク面謁哀願シテ王  
第四項 文宇ヲ明瞭ニ書シ得ル者ハ何人ヲ尚  
ハス及ヒ親族朋友及ヒ知人ニ代テ作爲スルヲ  
為シ或ハ親友及ヒ知人ニ代テ作爲スルヲ  
得第五項 第一項及ヒ第二項ノ手續ヲ爲サズ即  
第十官廳ヲ超越シ或ハ規定ノ外ニ却下スルモテ  
許願スルトキハ其願書ハ直子ニ却下スルモテ

トス 第六項 却下セラル、モ未々其非ヲ覺ラス  
テ不法ノ願書ヲ再呈シ或ハ一旦指令セラレタ  
ル訴願ヲ特別ノ理由ナク再呈スル者ハ相當ノ  
罰金處スヘシ  
第八百十年二月十四日發行ノ訴願規則(現行)  
第六項ニ曰ク却下セラル、モ未々其非ヲ悟  
ラシテ不法ノ願書ヲ再呈シ或ハ一端判  
決セラレシテ不法ノ願書ヲ特別ノ理由ナク再  
者ハ禁獄懲役或ハ懲治十四日乃至四週日ノ

ハ第六項ニ準シテ罰ニ處ス又同志者或ハ同志  
者總代人ニシテ若クハ執政大臣輩ノ通過ス  
ル地方官廳ニ於テ之ヲ發スル時ハ此輩ノ  
ム但此際該官廳ハ其願書ヲ收メ審査ノ上郵便  
ニ哀願付シテ之ヲ進達スル例トス然ルニ執政大臣  
ニ到ル時ハケカ六項ニ準シテ罰ニ處ス  
第一項一回懲戒ヲ受ケタルモ尚ホ他人ニ代テ願  
シテハ許願ノ旨意ヲ明シテ罰ニ處ス

罰ニ處スハ初犯ニ於テ處シタル罰ノ二  
再犯スル者ハ初犯ニ於テ處シタル罰ノ二  
倍ヲ加フル則數回ニ及フ者ハ毎度其前犯  
ノ罰ニ十四日乃至四週日ヲ加フ  
資力アル者ハ罰金ヲ以テ禁獄等ニ代フル  
トラ得ル者ハ執政大臣ニ面謁哀願シテ之ヲ煩  
第七項王或ハ執政大臣ニ面謁哀願シテ之ヲ煩  
ハ其願意ヲ主張シテ止マサル者ハ之ヲ警察  
官ニ付シ其郷里ニ送還シテ指令ヲ待タシム指  
令ヲ待タス再ヒ出願哀訴シテ止マサル者ハ

願ノ親書  
 罰ナ獄第子書体族ヲ  
 ニレ懲ハハヲ裁兩作  
 ハハ役糸百再ニ友為  
 日之或ニ十稿準及ス  
 乃ヲハ據年スセヒル  
 至ニ懲レニルサ知者  
 十倍治ハ月時ル人モ  
 四ニハ本十ハカニ亦  
 日三日又四相或代某  
 ヲ犯乃ノ日當ハテ五  
 加以至罰登ノ既願項  
 フ上十例行罰ニ書ニ  
 ハ四ハノニ却ヲ準  
 毎日常初請処下作シ  
 度ニ犯願スセ為テ  
 其處十規ラシ罰  
 前ニレ則レテニ  
 犯再ハ現タ法處  
 ノ犯禁行ル規ス

